環境設備原論(第12回目)[木曜日・14:30~16:00・小講義室2]

2005.01.13 環境共生学部・居住環境学専攻 助教授・辻原万規彦

| 学年 | : | 学籍番号: | 名前: | |
|-----|------|---------------|-----|--|
| 3 1 | · —— | 1 VII III 2 . | | The state of the s |

【演習問題】単位に注意して、下記の問いに答えよ。

- (1) 400m^2 の集会室 (天井高 3 m) に 300 人が在室しているときの CO_2 濃度に基づく必要換気量と換気回数を求めよ。ただし, CO_2 の発生量を一人当たり $0.017\text{m}^3/\text{h}$ とし,室内の CO_2 濃度の許容量を 0.1%, 外気の CO_2 濃度を 0.04% とする。
- (2) 40m²の事務室(天井高 2.7m) に5人が在室しているときの酸素濃度に基づく必要換気量と 換気回数を求めよ。ただし、軽作業時における酸素消費量は一人当たり 0.020m³/h とし、 室内の酸素濃度の許容量を16%、外気の酸素濃度を21%とする。
- (3) たばこを 1 時間に 2 本吸う場合,室内の浮遊粉じん量を $0.15 mg/m^3$ にするために必要な換気量を求めよ。ただし、たばこ 1 本当たりの発生粉じん量は 10 mg、外気の浮遊粉じん量は, $0.05 mg/m^3$ とする。
- (4) 室容積 150 m³の居室において,室内の水蒸気発生量が 0.6kg/h のとき,室内空気の絶対湿度を 0.010kg/kg(DA)に保つために必要な換気量を求めよ。ただし,室内の水蒸気は直ちに室全体に一様に拡散するものとし,外気の絶対湿度を 0.005kg/kg(DA),空気の密度を 1.2kg/m³とする。